



平成27年7月23日  
国土交通省中部地方整備局  
名古屋港湾事務所

## 第2回「名古屋港の未来を考える会」

市民により親しまれる港を目指して、  
今回は、クルーズ船の寄港促進のための方策について考えてみました

平成27年7月10日(金)、第2回「名古屋港の未来を考える会」を名古屋港湾事務所所有の浚渫兼油回収船「清龍丸」船内で行いました。

「名古屋港の未来を考える会」は、平成27年3月、名古屋港が更に魅力ある港へと発展するために、物流・産業のみならず、市民がより親しみをもてる港へ成長することが必要と考え、港のあるべき将来像について、女性の視点から、港づくりに関する様々なご意見をいただくため、設立しました。

メンバーは、油田淑子さん(全国消費生活相談委員協会監事)、大竹由紀子さん(総務省行政相談委員)、野田珠生さん(環境カウンセラー)、水尾衣里さん(名城大学教授)、柳田幸子さん(NPO法人伊勢湾フォーラム)の女性5名。

第1回目の未来を考える会では、

- ① クルーズ船は寄港する港を選ぶ時代。神戸港や横浜港に多くのクルーズ船が寄港するのに対し、名古屋港に寄港するクルーズ船が少ないのは、市民をあげて歓迎するおもてなしの精神が欠けているからではないか。
- ② 金城ふ頭やガーデンふ頭など、港の中にある様々な施設間を移動するための交通網が整備されておらず、交流拠点間に一体感がない。
- ③ クルーズ船の寄港情報や港で行われている様々なイベント情報などを市民の方々へPRする努力が不足しているのではないか。

といった意見が出されました。

そこで、今回の第2回目の考える会では、クルーズ船により多く寄港してもらうために必要な方策についての意見交換を行うため、オブザーバーとして名古屋港へのクルーズ船誘致を担当している以下の関係者をお招きし、意見交換を行うことにしました。

大竹正芳さん(名古屋商工会議所 企画振興部 地域・都市整備グループ長)

水谷健太さん(名古屋商工会議所 企画振興部 地域・都市整備グループ 係長)

米津仁集さん(名古屋港管理組合 港営部 誘致推進課長)



当日は、まず、昭和36年から名古屋港の浚渫作業を行っている浚渫兼油回収船「清龍丸(名古屋港湾事務所所属)」の船内を視察していただき、浚渫作業や油回収、災害支援等、「清龍丸」の重要な役割について乗組員から説明をしました。

視察したメンバーからは、「東日本大震災発生後に他の船よりもいち早く仙台に駆けつけたことを初めて知りました。日本に3隻しかないこういった船、四面を海で囲まれた日本に不可欠な多目的船のこうした日頃の地道な作業の大切さをもっと市民にPRしていくべきだ。」との意見がありました。



「清龍丸」船内視察の様子①



「清龍丸」船内視察の様子②

その後、オブザーバーとして参加した大竹正芳さんから、「クルーズ船誘致促進に関する取り組みについて」と題した講演が行われ、名古屋商工会議所が平成25年6月に取りまとめた提言内容についてや、平成26年2月に名古屋商工会議所が中心となって設立した「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」(会長 名古屋港利用促進協議会会長 高橋治朗)の事業内容を中心に、クルーズ船誘致のため名古屋港に必要なハード・ソフト両面における対策の内容やその必要性についての説明がありました。



大竹正芳さん 講演の様子



懇談会の様子

大竹正芳さんの講演を受け、活発な意見交換が行われ、

- ① 誘致促進会議の提言内容の実現を誰が責任を持って実行するのか。
  - ② 課題は大きく2つ、1つはより多くの市民がおもてなしの心を持つこと、もう1つはクルーズ船の入港から乗客がスムーズに乗り降りできるまでの手続きの一元化。
- などの意見が出されました。



今回のこうした意見を受け、当事務所としては、今後、関係する機関とともに、クルーズ船寄港促進のための問題点の解決を具体的に検討してまいります。

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお) TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303